

令和5年度 学校経営キーワード

子ども、教師、地域、みんながパートナー

感動と笑顔の花を咲かせるために身に付けたい

4つのコンピテンス

やっ
て
み
よう

チャレンジ力

ありがとう

コミュニケー
ション力

なんと
か
なる
さ

前向きさ

ありの
ままに

自分らしさ

令和5年度 大館市立長木小学校 学校評価書（前期）



茶道クラブ



花・花クラブ



ボッチャクラブ



伝承クラブ



手話クラブ



将棋クラブ

地域の方が講師を務める正課クラブの授業

令和5年10月5日（木）大館市立長木小学校

I 学校ランドデザイン

令和5年度 Well-beingな未来を目指す長木小 学校経営ランドデザイン

学校教育目標

ふるさとに立ち 心豊かで たくましく 生き生きと学び合う 子どもの育成

大地に根を張り、仲間と共にすくすく伸びて、感動と笑顔の花を咲かせる長木の教育

目指す学校像

- つながりの中でたくましく生きる力を高める学校
- 保護者や地域に信頼される開かれた学校
- 子どもが毎日行きたい、教師が楽しく働きたいと思える学校

目指す子ども像

- 一人一人が自分の力を発揮して輝く子ども
- 互いのよさを認め合い、思いやりのある子ども
- 主体的に行動し、共に高め合える子ども

目指す教師像

- 教育のプロとしての志とスキルと揺るぎない教育愛をもった教師
- 子ども主体の心を込めた仕事をする教師
- 笑顔、あいさつを大切にしている教師
- チーム長木を大切にしている教師

学校経営キーワード

長木小パートナーシップ宣言！
子ども、教師、地域、みんながパートナー

一人一人が花開く

感動と笑顔の花を咲かせるために身に付けたい4つのコンピテンス

やってみよう

チャレンジ力
肯定感 有用感
満足感 実現

ありがとう

コミュニケーション力
力を合わせる 感謝
親切 思いやり 喜び

なんとかなる

前向きさ
自己受容 楽観性
気持ちの切り替え

ありのままに

自分らしさ
自己概念 独立
人と自分を比べない

しなやかに上に伸びる重点戦略

人づくり 道徳や特別活動を通じた、豊かな心と健康な体の育成

- 自発的・自治的で創造的な児童会活動の推進
- 多様な縦割り活動の充実
- ノー原稿スピーチの推奨
- 児童の実態に応じた重点的指導項目の設定と共通実践
- 命の教育の充実
- 食育・体力づくりの推進

絆づくり 学校と地域のつながりと未来を考えるふるさとキャリア教育の推進

- 「輝け、エソソッポPJ」の推進
- 地域行事への積極的アプローチ
- 公民館、わんパーク大館等の事業の積極的活用
- 「長木型幼保・小連携」の充実と連携カリキュラムの作成
- ICTを活用した他校・他地域との連携

学力づくり 児童と教師で創り上げる一体感のある授業の構築

- 児童に任せられるかがやきタイムの導入と推進
- 問いを生む仕掛けのある授業
- 家庭学習による学びの定着
- 思考を鍛える話型の導入
- 単元評価問題・学習状況調査等を活用した授業改善
- 豊かな心を育む読書の推奨

学び場づくり 子どもたちが輝くための学習・生活のサポート

- 気持ちのよいあいさつの励行
- 基本的な生活習慣、学習ルールの定着
- ユニバーサルデザインを意識した授業の推進
- いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応
- 児童を語る会での情報共有
- メディアコントロールの取組の推進
- 外部機関との連携の充実

国語科の研究を通して、深く考え、よりよく表現する言葉の使い手の育成を目指す

- 問題発見や身に付けた資質能力の振り返りを重視した単元構想
- 読みの手法の明確化と働かせる見方・考え方の概念化
- 話型を活用した思考を高める話し合いの推進
- 問題解決を効果的に行うための言語活動の選択

教職員づくり よりよい職場風土の醸成と教師個々の潜在能力をくっと引き出す

- 教職員の資質能力とチーム力を高めるOJLコーチングの充実
- 働き方改革の更なる推進と風通しのよい職員室
- 仕事の中に「遊び心・笑い・ユーモア」を
- 教職員のキャリアステージに応じた研修の推奨

支える太い根

Ⅱ 令和5年度の学校評価について

令和5年度の学校評価書の概略について

- (1) 学校評価一覧に、学校経営目標と身に付けたい4つのコンピテンスの評価欄を新設しました。他の項目と同様に5段階で評価しています。自己評価の数値は教職員の5段階評価の平均値です。
- (2) 学校評価一覧の自己評価Bは、評価指標の小項目の自己評価の平均値で示しています。
- (3) 自己評価Aは学校評価項目Ⅰ～Ⅴのそれぞれの自己評価Bの平均で示しています。
- (4) 学校運営協議会評価は、学校からの説明や、自己評価B、自己評価A等の結果をに基づいて学校運営協議会委員の方々に5段階（極めて良好～努力を要する）で評価いただきます。
- (5) 評価書の横棒グラフは、実践課題等の達成状況について、児童、保護者、教職員にアンケートを行った結果を示しています。各項目の達成状況については「そう思う まあまあそう思う」と回答した人数の割合を合わせた「肯定的回答」の割合で評価しています。
※目的に応じて児童、保護者、教職員で共通した質問を行い、意識の違いや差を明らかにして、次の取組の改善に活用します。
- (6) 児童アンケート（児童質問紙）、保護者アンケート（保護者質問紙）の結果は別紙の集計結果をご覧ください。

Ⅲ 学校評価の基準

協議会 自己評価Aと学校運営 の評価区分	極めて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い/数値目標の100%
	良好		4	実現状況は良好で意識もある/数値目標の81～99%
	概ね良好		3	実現状況はおおむね良好である/数値目標の61～80%
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定/数値目標40～60%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する/数値目標の39%以下の達成

〈参考〉児童・保護者のアンケートの評価基準、対象者数・回収率

そう思う	4
まあまあそう思う	3
少し不十分	2
不十分	1
分からない	0

調査対象児童数	92名
調査対象保護者世帯数	119世帯
回数世帯数	104世帯
回収率	87%
教職員数	14名

IV 項目別評価

学校教育目標の実現 4つのコンピテンス

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
4つのコンピテンスの意味を捉え、具体的な目標をもち、学習や生活に取り組もうとしてきている。	前期	概ね良好	概ね良好	4つの能力は大人であっても大切な能力だと感じる。具体的にどういうことなのかを児童や保護者に浸透させることが大切。授業でも行事でも徹底して意識させてほしい。グランドデザインとの一体化に思い切った変化が見られてよい。
	後期			

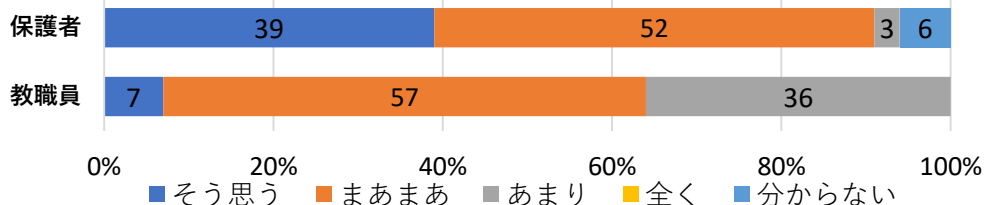
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】本調査項目は、今年度新設した。今年度の学校経営のキーワードを「子供、教師、地域、みんながパートナー」とし、保護者や地域の方々にも学校経営に参画していただくことを目標とした。そのために、学校教育目標や学校が目指すビジョンを示し共有化してもらう必要があり、学校評価をその絶好の機会と捉え、アンケート項目に加えたものである。</p> <p>学校教育目標については、保護者と教職員に調査を行ったが、保護者の肯定的回答は91ポイントであるのに対し、教職員は64ポイントと当事者としての意識の低さがうかがえる。これは、今年度、コロナ禍以前の活動に戻したからというよりも、本校の校内分掌の機能の問題ではないかと考えられる。若手教員が多くなったことや、分掌の役割が一人一役が多く、行事等の目的や方向性について共通理解が行われなまま進んでいるからではないかと考えている。</p> <p>4つのコンピテンスについては、児童、保護者とも肯定的回答は約80であるが、「そう思う」の回答が3割程度の項目が見られる。これについては、教職員も含め児童、保護者がこの4つのコンピテンスを学習や生活の中で意識する場面が少なく、学校側としての仕掛けが不十分なことによるものと思われる。チャレンジしなければ、友だちとのコミュニケーションも生まれず、失敗に立ち向かう前向きさや、その中で感じる自分らしさの実感はない。学校教育目標に基づいた教育の実現や4つのコンピテンスを身に付けた児童を育成するために、学校組織と意識の改革を進めていきたい。</p>

評価指標	評価指標の内容	自己評価 B	
		前期	後期
学校教育目標	ふるさとに立ち心豊かでたくましく生き生きと学び合う子どもの育成	3.2	
チャレンジ力	何事にも「やってみよう」という気持ちをもって粘り強く取り組んでいる。	3.2	
コミュニケーション力	学校生活や家庭生活の中で、感謝の気持ちを忘れずに生活している。	3.1	
前向きさ	失敗してもくよくよせず、気持ちを切り替えて前向きに取り組んでいる。	3.3	
自分らしさ	自分と他人を比べずに、自分がなりたい自分をしっかりとって生活している。	3.0	

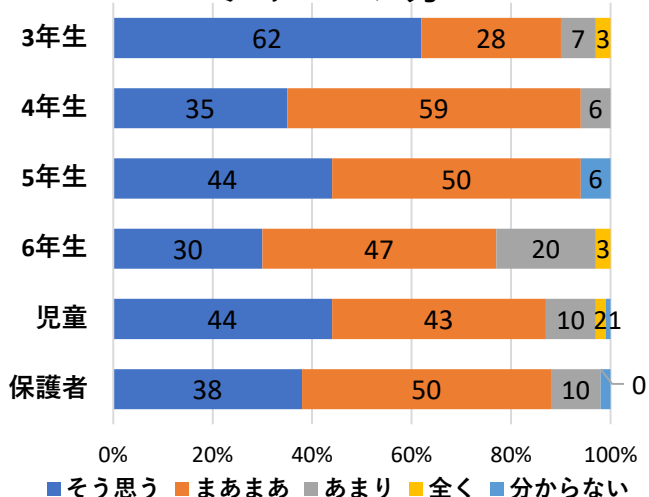
【評価指標】 学校教育目標・身に付けさせたい資質

【学校教育目標】

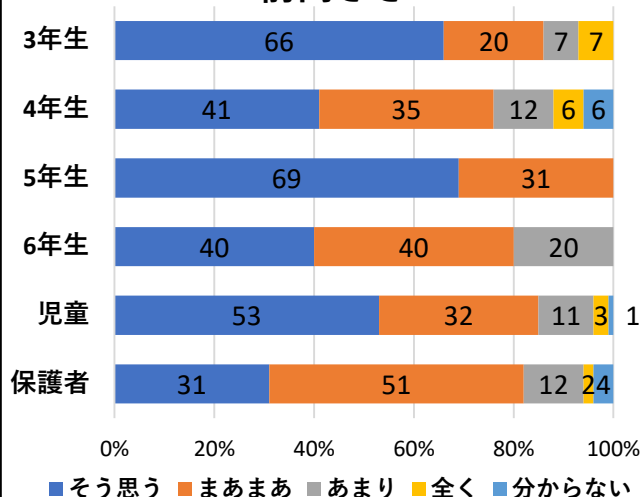
学校は、学校教育目標の実現のため、創意工夫した教育活動を実施している。



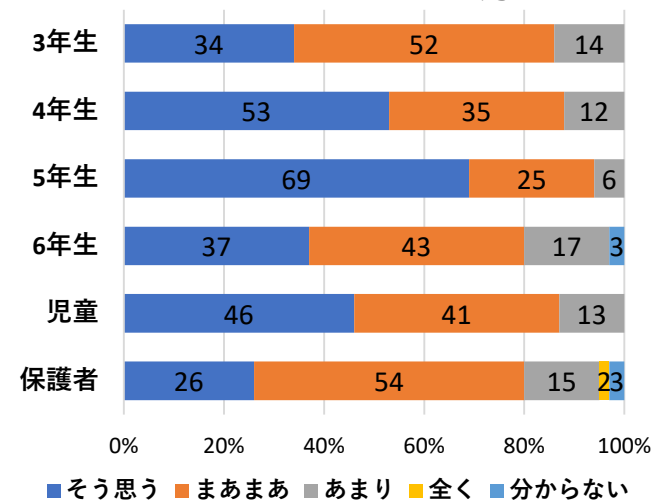
チャレンジ力



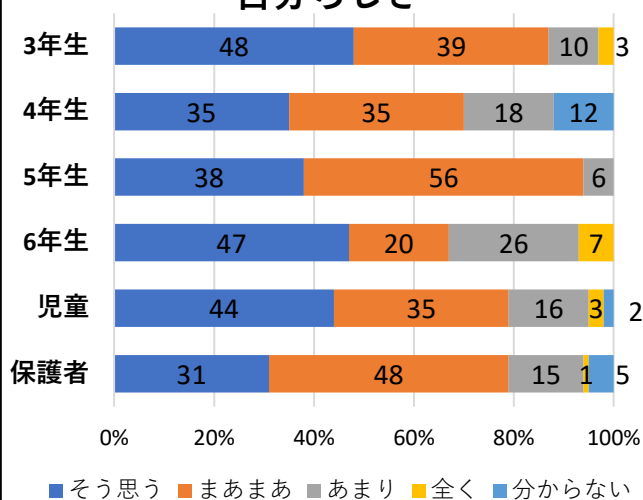
前向きさ



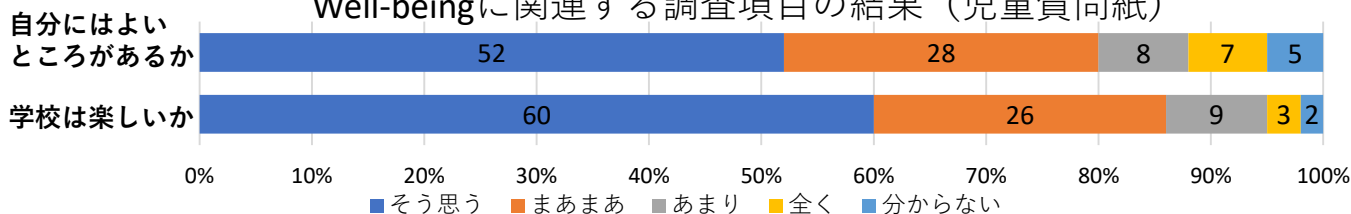
コミュニケーション力



自分らしさ



Well-beingに関する調査項目の結果 (児童質問紙)



Ⅳ 項目別評価

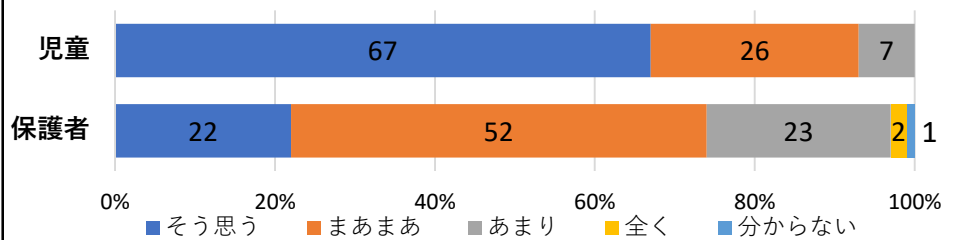
1 社会性の育成

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、規律ある態度で協力し合い、主体的で充実した学校生活を送ろうとしている。	前期	概ね良好	概ね良好	あいさつが課題のように見えるが、子どもたちは地域でしっかりあいさつができています。「正しい言葉づかい」を「思いやりのある。やさしい」などの言葉に置き換えると結果がまた違って見えてくると思われる。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】社会生活を営む上で基本的に身に付けたい生活習慣に関する質問であり、言葉遣いは新聞である。子ども達が友だちと起こすトラブルの要因の一つとして「相手の気持ちを考えない不用意な発言」や「ふさわしくない言葉遣い」がある。本調査では、児童がどの程度言葉遣いを意識しているのか、また、保護者による家庭での指導がどの程度なされているのかを見るために実施した。①あいさつや④責任感は肯定値が昨年度から+4ポイント、+7ポイントと児童の自己評価は伸びているが、③の「約束を守る」は-14と大きく下げた。また、新聞の②「正しい言葉遣い」の肯定値は68ポイント、⑤「学校の過ごしやすさ」は65と落ち込みが見られる。「正しい言葉遣い」の保護者の結果では、「そう思う」の回答が15ポイントと、全設問の中で最も低い結果であり、家庭での指導が不十分と感じている保護者が多いことがうかがえる。</p> <p>本校では今年度、道徳における重点指導項目を前期の学校評価アンケートの結果に基づいて設定し、社会性の育成に関しては「規則の尊重、よりよい学校生活、集団生活の充実」を2学期以降の重点項目として取り上げることとした。また、道徳以外の場面でも、児童会の委員会活動を主体的に行い、いじめ等のない過ごしやすい環境づくりについて考える機会を設定するなどして、いじめ防止の意識化と活動の見える化を図っていきたいと考えている。</p>			

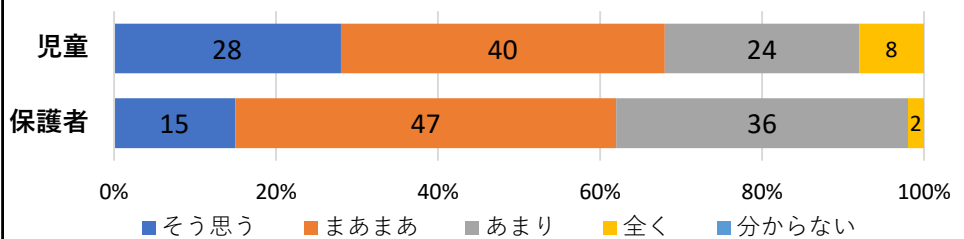
評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
(1)基本的な生活習慣の定着	①明るいあいさつと正しい言葉遣いの励行	登下校時や校外でのあいさつの指導 相手や場に応じた言葉遣いの指導	3.1	
	②生活の約束を守る姿勢・態度の定着	長木っ子の約束の徹底		
(2)集団生活・集団行動の遵守	③学校づくりに参画する態度と実践力の育成	児童会活動（委員会 こども集会） 児童総会 クラブ活動	3.4	
	④自分の活動に責任をもち、互いのよさを生かし認め合う態度の育成	係活動 学級会 グループ活動 輝き合い集会 絆タイム 縦割り班活動 全校道徳 ココロの授業の実施		
(3)組織的な生徒指導	⑤問題行動の早期発見、即時対応、指導体制の確立	長木っ子を語る会 個人面談 定期的ないじめ等の調査 外部機関との連携	3.8	

【評価指標（1）】 基本的な生活習慣

児童：友だちや先生、地域の方に元気にあいさつをしていますか。
保護者：子ども達はご家庭や町内で元気なあいさつをしていますか。



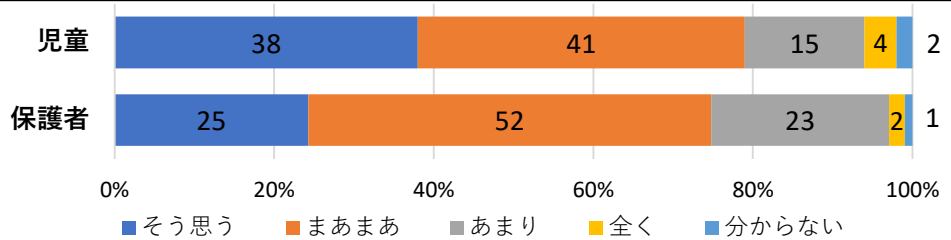
児童：正しい言葉遣いで話していますか。
保護者：子ども達は相手や場に応じた正しい言葉遣いができていると思いますか。



【評価指標（2）】 集団生活・集団行動

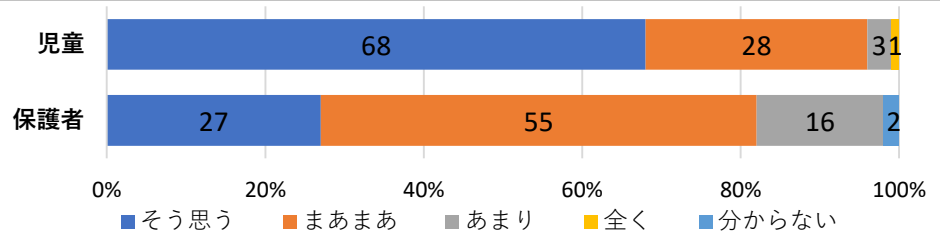
児童：学校や家で約束を守って生活していますか。

保護者：子ども達は学校や家で約束を守ろうとしていますか。



児童：自分の仕事を責任をもって行っていますか。

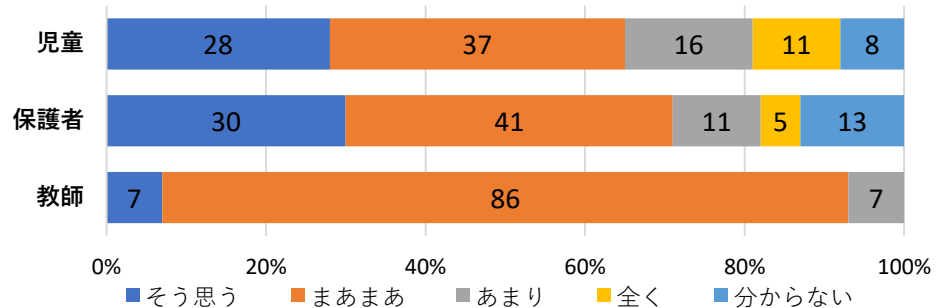
保護者：子ども達は学校や家で自分の役割を果たしていますか。



【評価指標（3）】 組織的な生徒指導

児童：あなたにとっていじめなどのない、過ごしやすい学校ですか。

保護者・教師：学校はいじめ等のない安心できる学校づくりに取り組んでいると思いますか。



IV 項目別評価

2 健康と体力づくり

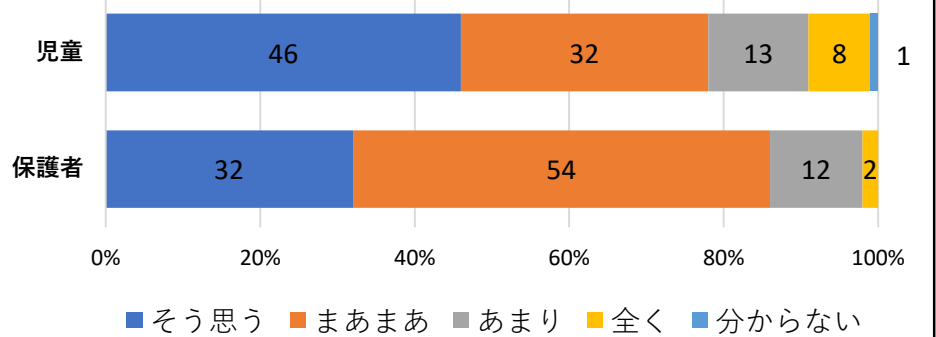
児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や運動を通じて健康や体力に関心を持ち、また、避難訓練等を通して身の守り方を身に付け、健康で安全な生活を心がけている。	前期	概ね良好	概ね良好	メディアコントロールは家庭の問題であるが、学校からの保護者への訴えかけ、ルール作りなどが急務である。児童、保護者への意識付けをお願いしたい。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】⑥の基本的な生活習慣に関する質問「早寝、早起き、朝ご飯、歯みがき」については、保護者の肯定的回答が86ポイントで昨年度比+4ポイントだが、児童の肯定的回答は昨年度の95ポイントから-17ポイント下がり、78ポイントと大きく落ち込んだ。新聞「時間を決めてゲームをしたり動画を観たりする」は、児童は73ポイントと数値の落ち込みが見られた。早寝、早起きが大きく下がった原因は直接的には分からないが、ゲームや動画の視聴の影響は十分考えらる。基本的な生活習慣の乱れは学力低下や不登校に直結する大きな問題でもあり、機を捉えて児童にメディアコントロールの重要性を話していくとともに、PTAでも繰り返しお願いをしていきたい。</p> <p>また、本評価には入れていなかったが、今後は熱中症対策も危機管理に加えて行く必要がある。熱中症予防に関する備品の整備や危機管理のマニュアルの見直しを進め、児童だけでなく保護者や教員の意識を高めていくことが重要である。</p>			

評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
(4) 健康教育、食育、安全教育の推進	⑥生活習慣の定着・改善	生活習慣の定着とメディアに関する実態調査 メディアコントロール週間の実施 保健指導の充実 栄養士による食育指導 てくてく歩こう運動	3.8	
	⑦安全教育の充実と組織的な取組	交通安全教室 避難訓練 危険箇所点検 メール配信システムの活用 PTA・地域子ども見守り隊との連携 登校指導		
(5) 体力づくり	⑧さわやかマラソン・業間運動への積極的な取組	さわやかマラソン 外遊びの奨励 マラソン記録会の実施	3.4	
	⑨新体力テストの結果の向上	結果分析・活用 体育での補強		

【評価指標（4）】 学校安全、保健体育・食育の状況

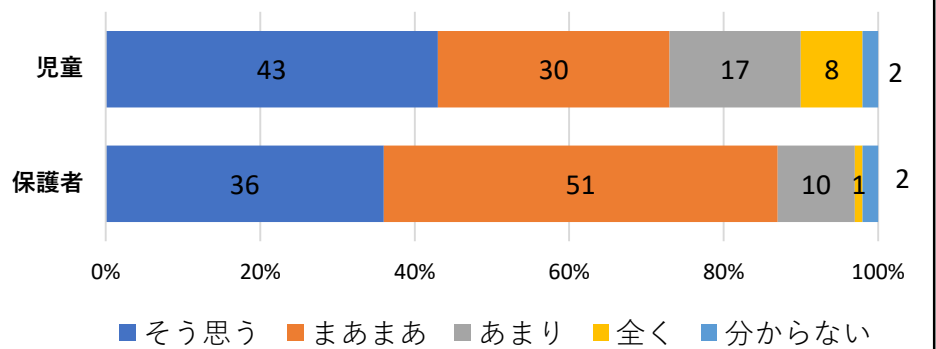
児童：「早寝、早起き、朝ご飯、歯みがき」がしっかりとできていますか。

保護者：子ども達は「早寝、早起き、朝ご飯、歯みがき」などの基本的な生活習慣が身についていると思いますか。



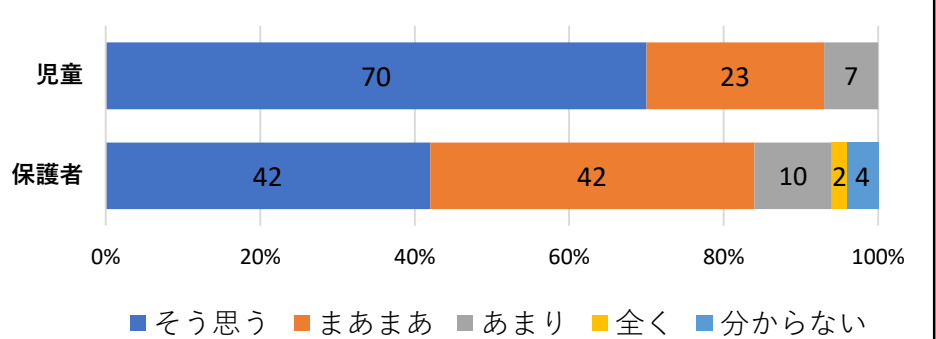
児童：時間を決めてゲームをしたり動画を見たりしていますか。

保護者：学校はメディアコントロール等、子ども達の生活習慣を改善するための取組をしていると思いますか。



児童：地震や火事などのときの身の守り方や、交通安全のルールをしっかりと身に付けていますか。

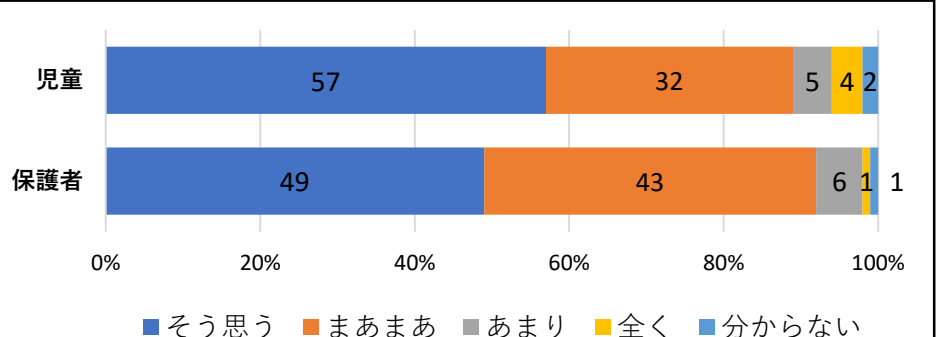
保護者：学校は校内外における子どもの安全確保について、情報収集を行い、十分な情報発信をするなど、安全対策を取っていますか。



【評価指標（5）】 体力づくり

児童：「さわやかマラソン」や「てくてく歩こう運動」など、体を動かすことを進めていますか。

保護者：学校は「さわやかマラソン」や「てくてく歩こう運動」を通して進んで運動し心身を鍛えようとする子どもを育てていると思いますか。



IV 項目別評価

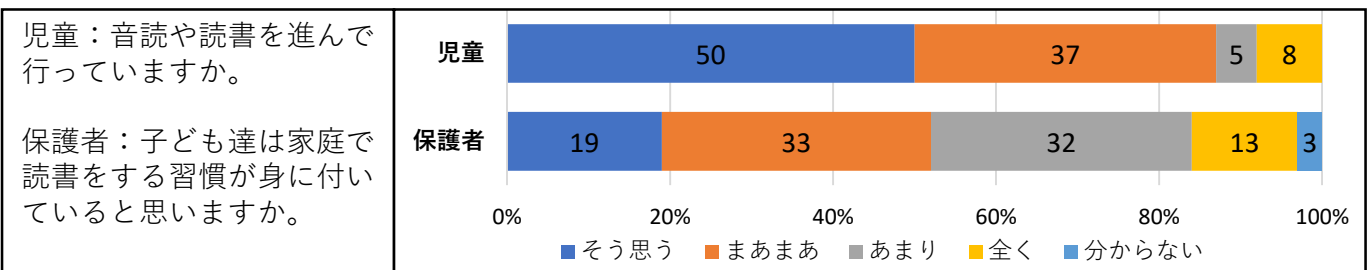
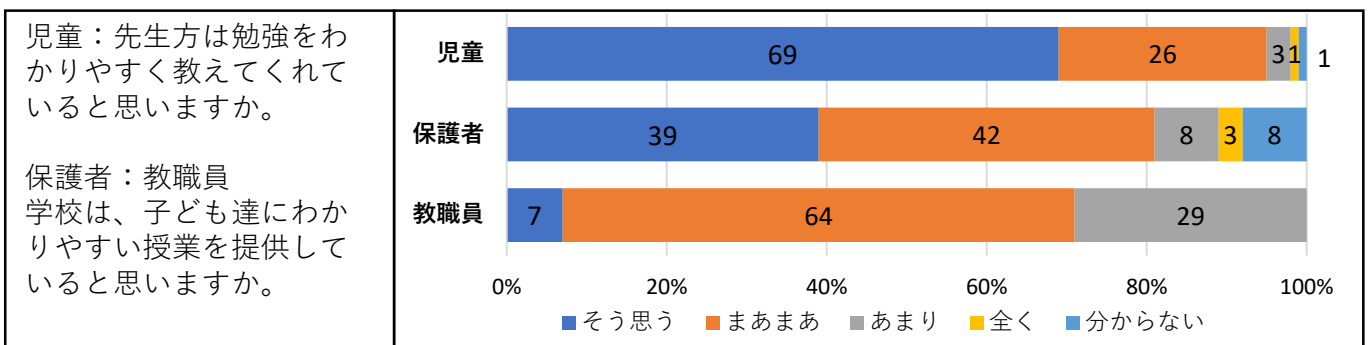
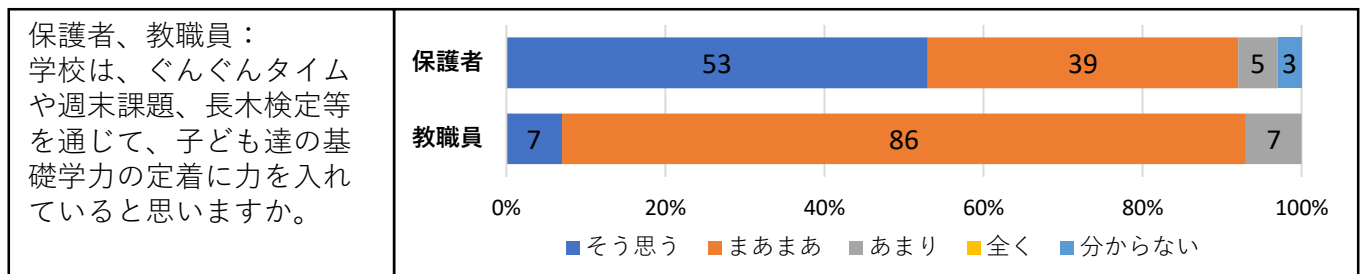
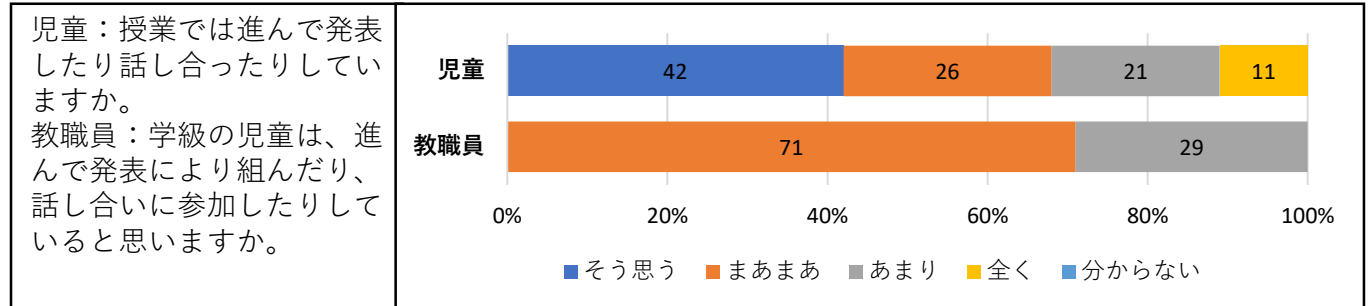
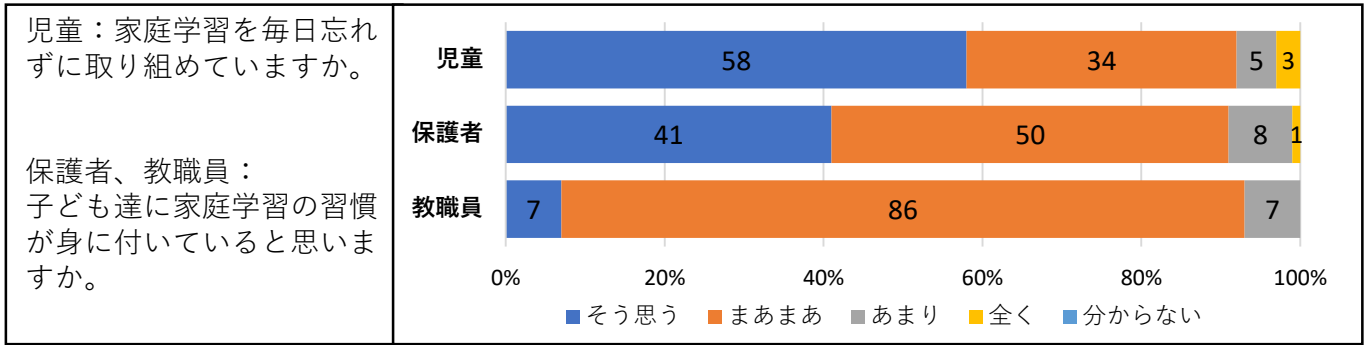
3 確かな学力

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
意欲的に学習に取り組み、基本的な学習習慣を身に付けながら、学力を向上させようとしている。	前期	概ね良好	概ね良好	授業参観では1年生に考えさせる工夫が見られた。コンピテンスの一つのコミュニケーションが課題に見える。話し合う力を育ててほしい。タブレットも効果的に授業に組み込んで活用してほしい。
	後期			

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】基本的な学習習慣における学習の約束を守ることや、家庭学習の定着に関する自己評価は3.5で昨年度よりも+0.5上昇した。児童や保護者の家庭学習に対する肯定的な回答も90ポイントを超え、良い傾向にある。ただし、家庭学習の内容については、教科書を写すだけのものから考えて身に付けるものへの質の向上を図ることを、児童、保護者に促していく必要があると感じている。</p> <p>新問の児童質問紙⑪の「進んで発表したり話し合ったりしているか」の肯定的回答は68ポイントで評価が低い。約3割の児童が不十分・十分ではないと捉えている。自分の考えをしっかりと、話し合っって課題を解決することは、これからの社会を生き抜いていくために必須の能力と捉えている。今年度は、こうした状況を踏まえて研究教科を国語に据え、児童の疑問から学習課題を作り、話し合っって解決していく授業スタイルを打ち出している。子ども達が自信をもって自分の考えを述べるができるよう授業改善を進めていきたい。</p> <p>読書習慣については、保護者の肯定的回答が52ポイントと全設問で最も低い。先述のゲームや動画を視聴する時間が増えるに従い、読書活動の低迷が予想される。読書週間の設定や図書委員会による呼びかけ等を通して、今一度、読書について学校と保護者で考える機会を作っていきたい。</p>

評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
(6)学習への取組	⑩基本的な学習習慣の定着	学習の約束(チャイム席/準備) 相手を意識した聞き方・話し方 家庭学習	3.3	
	⑪学習内容の基礎・基本の確かな定着	週末課題 長木検定 ドリル検定 パワーアップ		
	⑫課題解決的で共感的な学び合いの推進	課題解決的な単元構想 共感的なかがやきタイム ICTの活用		
	⑬読書活動の推進	読書タイム 読書運動 週末読書 よむよむリストの活用		
(7)諸学習調査の状況	⑭学習状況調査等の分析と改善	学習状況調査・CRTの分析と活用・補充指導	3.0	

【評価指標（6）】学習への取組



Ⅳ 項目別評価

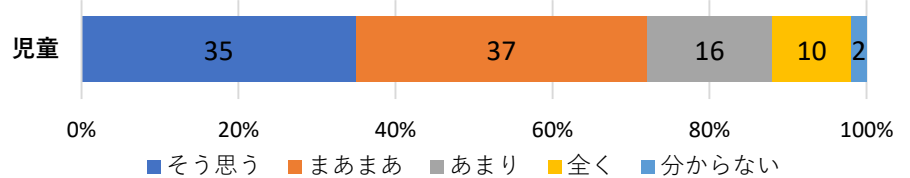
4 ふるさとキャリア教育

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
ふるさとに誇りと愛着をもち、ふるさとに生きようとする気概もっている。	前期	やや不十分		様々なところで活動をしており、鳳凰太鼓やポップコーン販売、地域ボランティアなどはよくやられている。自分たちで主体的に取り組む気持ちの醸成が今後も課題であろう。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】指標（8）⑮のエゾポップ P J に関する質問は、昨年度の自己評価3.3から0.6ポイント下げた。これは担当者が変わったこともあるが、教職員間で活動をどう進めていくかの共通理解が不十分であったことによると思われる。また、中庭のエゾタンポポも開花している期間が短く、学校を支える活動としてのインパクトにやや欠ける部分があり、教職員も活動の継続を難しく感じている。今年度中に次年度計画と組織を整え、学校全体で対応していくことが必要であると考えている。</p> <p>指標（9）の伝統芸能の継承や（10）のキャリア教育に重点を置いた取組では、保護者の肯定的回答が9割を超えており、大変よく評価していただいている。自己評価の数値はやや下げたが概ね良好であろう。対して児童への質問「地域の行事に積極的に参加しているか」についての肯定的回答は72である。地域から様々な活動の場を与えていただきながら、地域への貢献という意識に結び付いていないことがうかがえる。コロナ禍で地域とのつながりが希薄になった活動を少しずつ取り戻し、自分たちが地域に役立っているという自己有用感をもてるよう、取組の改善を図っていきたい。</p>			

評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
(8)命輝け！エゾポップ P J	⑮地域のエゾタンポポを守る活動	エゾタンポポの植栽活動 エゾタンポポの広報活動・交流活動	2.7	
	⑯共生の意識を高める取組	命輝き学習 地域の輝きの発信 QRマップ 保小連携		
(9)伝統芸能の取組	⑰鳳凰太鼓・鹿島太鼓の伝承	太鼓クラブによる伝承を発表 伝承クラブによる伝達と鹿島流しへの参加	3.8	
(10)キャリア教育に重点を置いた取組	⑱協働実践へのアプローチ	宿泊体験活動 地域行事への参加 町探検・職場体験 施設訪問 あじさいレールロード P J への協力	3.9	

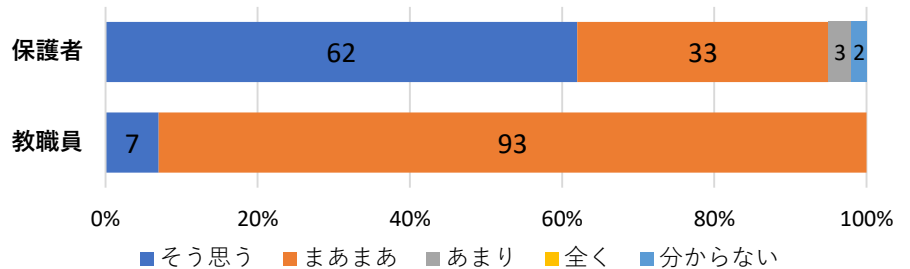
【評価指標（8）】命輝け！エゾポッポPJ

児童：進んで地域の行事に参加していますか。



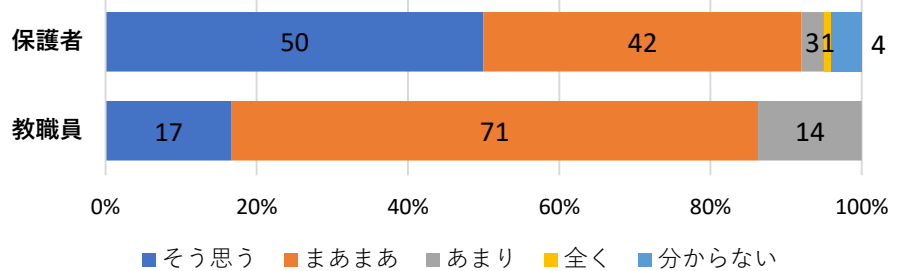
【評価指標（9）】伝統芸能の取組

保護者、教職員：学校は、エゾタンポポPJやあじさいPJ、鳳凰太鼓や鹿島太鼓、鹿島流しなどの活動を通して、子ども達にふるさとを愛し誇る気持ちを育てていると思いますか。



【評価指標（10）】キャリア教育に重点を置いた取組

保護者、教職員：ふるさとキャリア教育を通して、協力して取り組もうとする気持ちが子ども達に育っていると思いますか。



Ⅳ 項目別評価

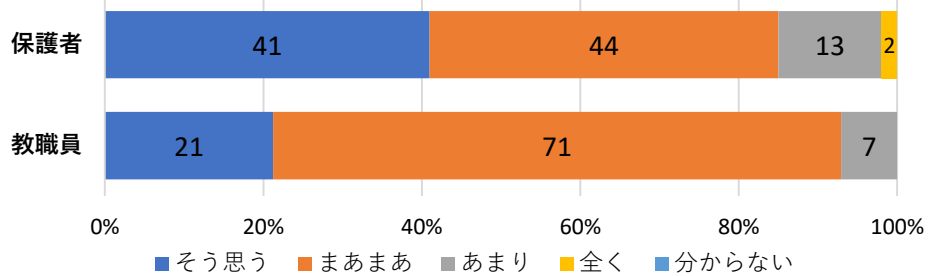
5 保護者・地域との連携

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組がわかりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	概ね良好	概ね良好	正貨クラブの人材活用、鳳凰太鼓の取組など、高いレベルで地域とのつながりが感じられる。トウモロコシ販売も、地域のために何ができるかを考えるよい取組で素晴らしい。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】評価指標（11）の地域・家庭との連携について、自己評価 B では昨年度比 -0.4、保護者に対する質問「学校だより、学年通信等の日常の情報交換」についても昨年度の肯定的回答から -7ポイントとなった。学校評価の記述欄で最も多かったのが、行事等の事前連絡が遅れたことへの苦情であり、保護者への配慮が欠けていたためである。これは、保護者の意見の反映にも数値として表れている。学校として判断に迷う事柄も多いが、連絡のタイミングを逃すことなく情報提供を行っていききたい。</p> <p>地域のリソースの活用については、保護者の9割が肯定的な回答であり、特に地域人材の活用において、地域の方々に支えられて学校運営が成り立っていると実感されているのだから考える。今後の学校としては、本校の児童の中から将来的に地域を支える人材が育成されるよう、地域とのつながりをさらに充実させ、子ども達の中に自分たちは地域の一員であるということを強く意識させる取組を展開していききたい。</p>			

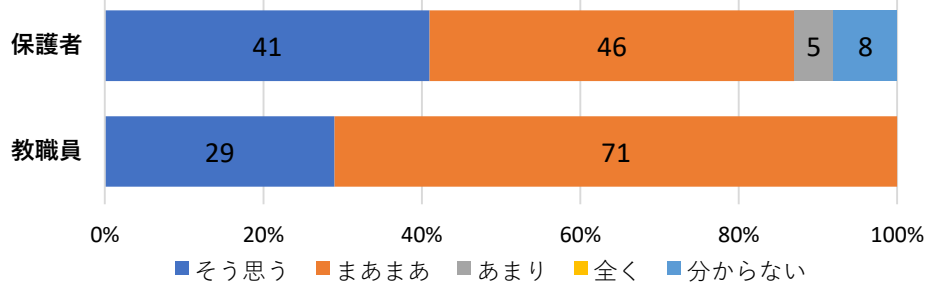
評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
(11)地域・家庭との連携	⑱家庭・地域への情報発信、相互理解	学校報の地区配布 「みんなの登校日」の設定 エゾポップくらぶ ホームページ・ブログ・メールでの情報発信	3.4	
	⑳家庭・地域の意見の活用	学校運営協議会の実施 学校評価アンケートの実施と活用		
(12)地域の教育力の活用	㉑地域人材や地域素材の活用	長木小後援会、応援チームとの連携 正課クラブ指導者との連携 子どもハローワークの推奨	3.8	

【評価指標（11）】 地域・家庭との連携

保護者、教職員：
学校は、学校だより、学年だより、保健だよりや日常の情報交換などを通して、学校や子ども達の様子を分かりやすく伝えていますか。

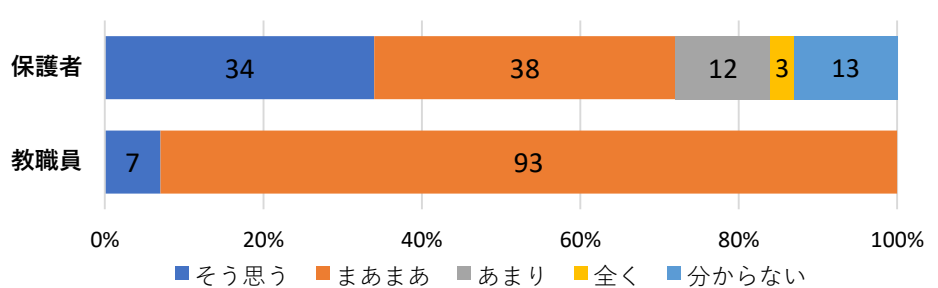


保護者、教職員：
学校は、PTA活動、教育後援会事業、スポ少等、保護者や地域との連携を大切にしていますか。



保護者：学校は、保護者の意見を学校運営に生かしていると思いますか。

教職員：学校は教職員の意見を学校運営に反映させていると思いますか。



【評価指標（12）】 地域素材や人材の活用

保護者、教職員：
学校は、地域の特徴や地域の人材をよく活用していると思いますか。

